

神戸西部支部では、医療安全に関する身近な困りごとをテーマにし、研修会を開催しています。

今回は、「病院で患者さんから暴言・暴力を受けたらどうしたら良いの?」「110番で、そんな簡単に掛けて良いものなの?」という疑問から、「そうだ!警察の人に聞いてみよう!」という話になり、兵庫県警の方に講師をお願いしました。護身術も教えて頂き、大変楽しい研修でした。アンケート結果をご覧ください。単に講義を聞くだけでなく、講師の方や他の医療機関の人たちとディスカッションすることで、自施設の取り組みの参考になるヒントを見つけて帰って頂けます。

毎年9月と2月の会員会と同日に開催しており、次のテーマは下記の予定です。是非、皆様お誘いの上ご参加ください。

次回 2024年9月予定

テーマ「身体的拘束最小化体制の整備と転倒転落防止対策について考える」

開催日：2024年2月16日（金）

研修タイトル：医療安全情報交換会 ～現場での困りごと パート4～

テーマ：『暴言暴力対策 警察との連携』

講師：兵庫県警察本部 生活安全企画課 防犯抑止対策係 警部補 仲 正志 氏

内容：110番通報の仕組み

犯罪行為の例（直接的な行為、間接的な行為）

組織内での防犯対策時の役割分担

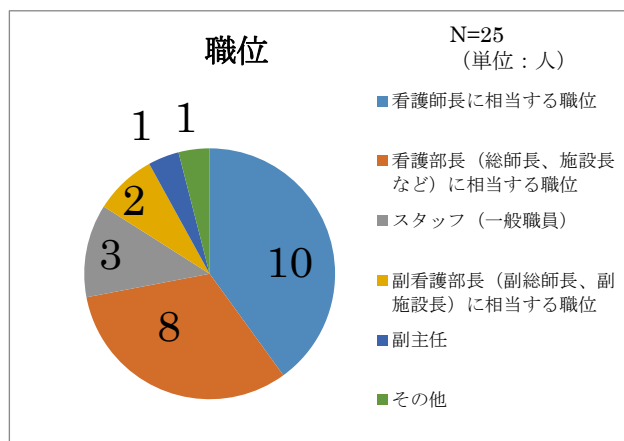
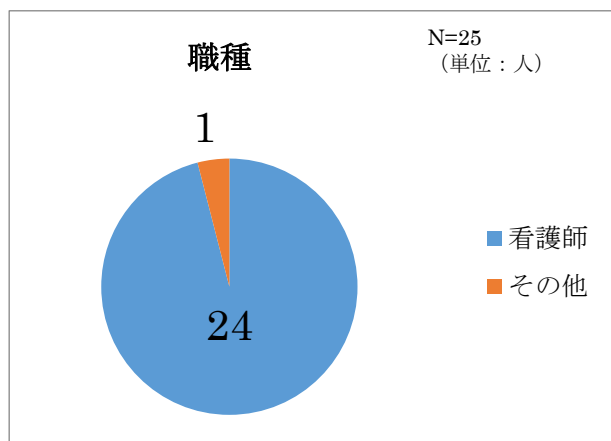
緊急時の対応

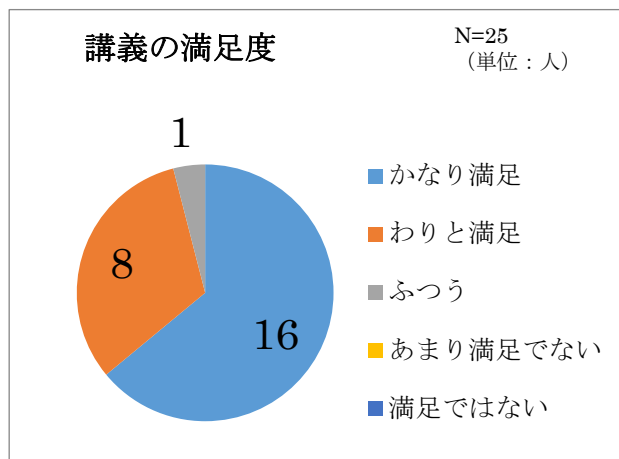
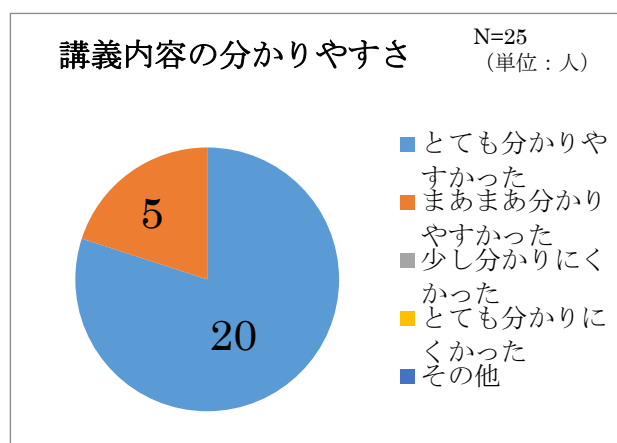
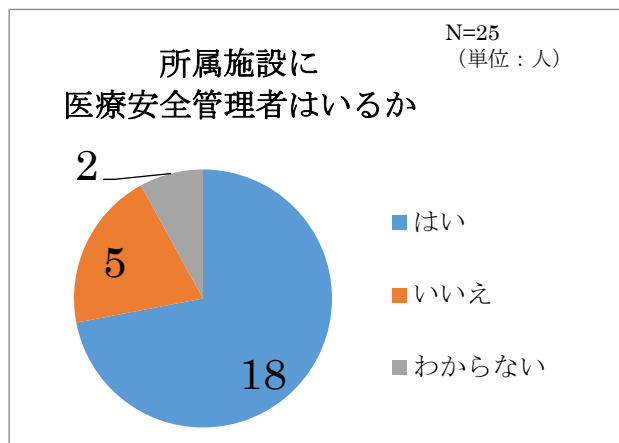
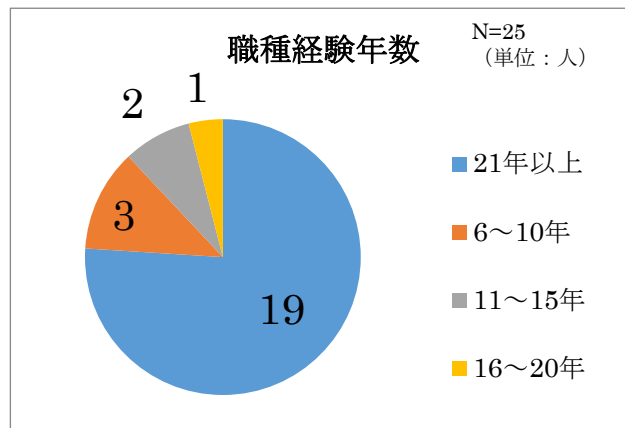
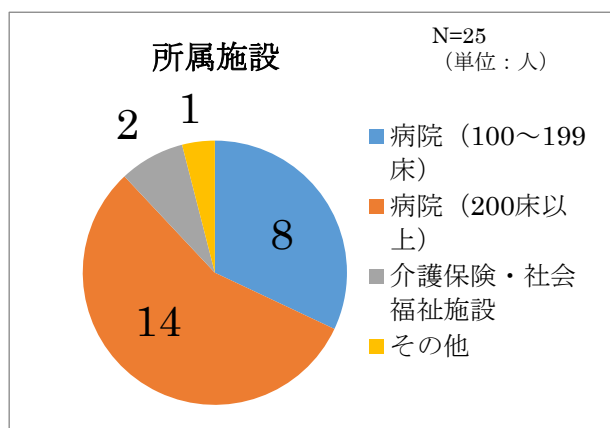
簡単な護身術について（実技）

方法：講義・個人ワーク・情報交換（グループワーク）

参加人数：30人（うちWeb5名）

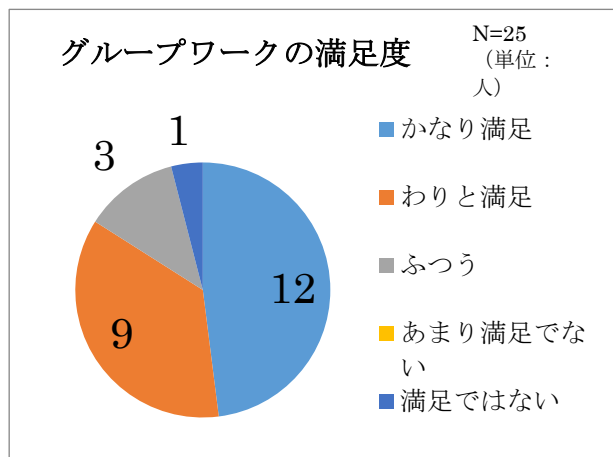
アンケート結果：回収率83.3%



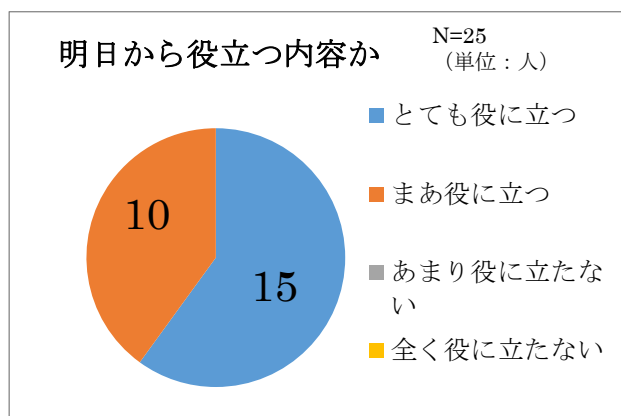


- ・ そうなんだと思うことが多くてたくさん学びました。
- ・ 護身術を始めて知りました。
- ・ 通報基準などモヤモヤしていた部分が解決できた。
- ・ 遠慮なく警察に相談してもいいということがわかったので安心した。
- ・ 護身術楽しく参加・困りごとに関してグループ皆んなが意見を言って楽しく参加できた。
- ・ 医療の現場でも警察対応となる危険な状況の時がありますが、専門家の方のお話で護身について学ぶことができ、認知症の方・精神疾患のある方にも使えそうだなと感じました。医療者としてどうしても使命感が先に立ち、我慢すればいい事だと思いがちですが、しっかり状況を見極めて職員や自分を守っていくすべを身につける必要があると思いました。
- ・ 実技と意見交換会が両方あって良かったです。
- ・ 日頃悩む内容に沿った講義内容だった。
- ・ 身近な問題、疑問が解消した。

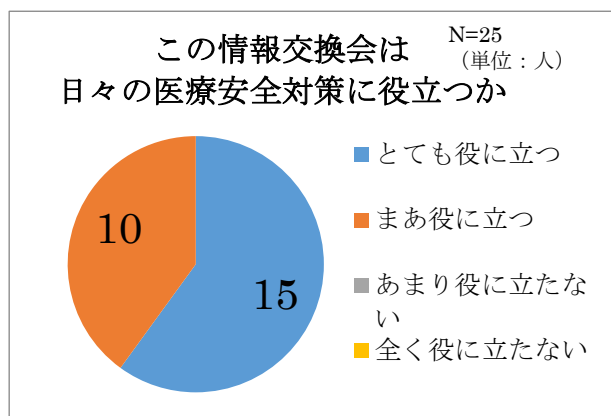
- ・護身術など実際に体験することで方法が分かった。
- ・実際やってみて分かりやすく勉強になりました。
- ・楽しく参加できた。
- ・普段聴くことが出来ない警察の方のお話が聞けた。
- ・分かりやすかった。
- ・動画も見て院内で伝達したいと思った。



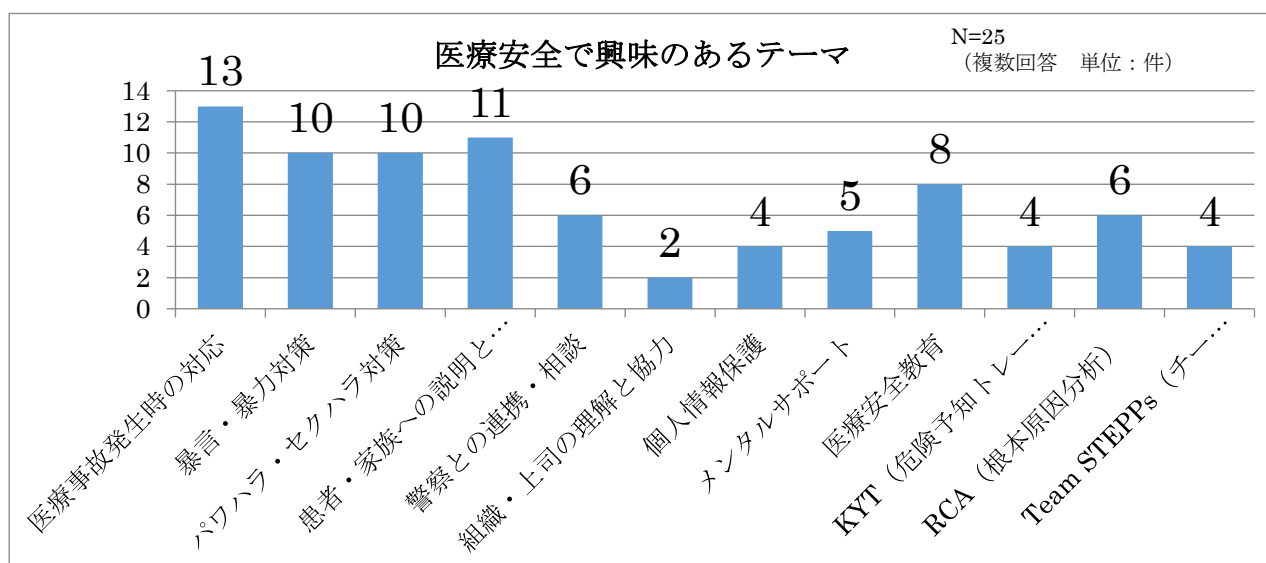
- ・今回も zoom 操作に不具合があった
- ・グループワークをすることで、他施設の困りごととも聞けてよかった。
- ・意見がいいやすかった。
- ・管理者グループだった為、意見に偏りがあった。
- ・他病院での取り組みが聞けた。
- ・皆の現状が知れて勉強になりました。
- ・比較的同じような悩みや疑問点を持っていることがわかった。



- ・職場で共有し躊躇いなく通報できると思う。
- ・警察介入が殆ど無い。
- ・悩まず警察に電話して良いことが分かった。
- ・危険な状況では一人で対応しないと改めて思った。
- ・護身できる。
- ・自施設に帰って伝達講習したいと思う。
- ・グループワークの中で解決策の手がかりがある。



- ・グループワークの中で解決策の手がかりがある。
- ・新しい学びがある。
- ・他院、他施設との情報交換ができ、顔の見える関係作りができる。



研修を終えて：

警察の方にとっても、医療機関からの研修依頼はこれまでほとんど無かったとのことで、今回の研修を通して、医療機関でどのような問題があるのかを知ることが出来、とても良い機会であったと言われていました。

講義では、110 番通報と各地区の管轄の警察署への電話の違いについて教えて頂きました。110 番は、通報者がしゃべることが出来ない場合でも、位置情報を探り 10～15 分以内に現場に駆けつけてくれるとのことです。どちらも「事件ですか？事故ですか？」と聞くのは同じですが、警察署では一般の警察官が、生活相談等幅広く対応しており、110 番はプロの警察官が電話に出るため、緊急時には迷わず 110 番に掛けて下さいとのことでした。

グループワークでは、認知症患者さんの対応や入院患者さんの離院時の対応などについて、話題が上がっていました。認知症患者さんが離院した場合、どのタイミングで通報するのが良いのか？という質問に対し、万が一、外に出てしまっている場合、時間が経てば経つほど事故に遭うなどリスクが高くなるため、一刻も早く通報することが大切というお話でした。通報後、病院内に居たということが分かればそれで良い、何よりも患者さんが無事であれば良い、という力強い言葉を頂きました。

神戸西部支部では、研修や委員会を通じて医療安全に関してちょっとしたことをお互い気軽に聞けるよう、施設間のネットワークを広げて行きたいと思っています。今後も身近な困りごとをテーマに取り上げて情報交換会を開催しますので、次回をお楽しみに。

2024 年 3 月 15 日

兵庫県看護協会神戸西部支部医療安全委員会